

思
出



礎

入学式

一年一組 柄澤 祐里

四月、入学式を終え私たちは高校生活の新たなスタートを迎えました。新しい制服を着て、緊張と期待が入り混じった気持ちで式に臨みました。初めての場所、初めて出会う人々と一緒に過ごす生活に対して、正直なところ不安もありましたが、それ以上に新しい環境でどんな毎日が待っているのか、ワクワクする気持ちが強かったです。

入学式では、校長先生の話や先輩方の歓迎の言葉を聞き、改めて高校生活が始まったのだと実感しました。まだ何もかも始まったばかりですが、自分がどんなふうに成長できるのか、期待と少しの不安がありました。周りにはたくさん新しい友達がいって、これから一緒に勉強したり、部活動をしたりすることを考えると、気持ちが高ぶりました。入学式が終わった後、新しい学校、新しい友達と話しながら「どんな学校生活になるかな？」と楽しみな気持ちが膨らみました。

これからの三年間、たくさんの挑戦や経験が待っていると思います。授業や部活動、友達との関わりを通じて、自分がどんな人間に成長するのを楽しみにしています。もちろん、何もかもが順調にいくわけではなく、挫折や失敗もあるかもしれませんが、ですが、それを乗り越えたときに得られるものはきっと大きいはずです。

また、高校生活は学業だけでなく、社会性や人間関係も大きな要素を占めていると私は思っています。新しい環境でさまざまな人と出会い、学び合い、協力しながら成長していけることに、とてもわくわくしていました。入学式で感じた新たな一歩を踏み出す勇気を胸に、これからの学校生活に臨んでいこうと思います。高校生活がどんなものになるか、入学して七ヶ月経った今でもまだ分かりません。それでも、

一日一日を大切にしながら、自分の目標に向かって努力し、充実した三年間を送りたいです。四月四日の入学式をきっかけに、自分をさらに成長させるために全力で取り組んでいきたいです。

みんなで頑張ったクラスマッチ

一年二組 田中 湧磨

僕たち一年二組は一人ひとりが個性を持ちとても賑やかなクラスで、面白い人たちがばかりです。そして、やる時はやるクラスです。そんな二組は団結力がありクラスマッチでは全力で正々堂々と戦いました。

今回のクラスマッチで僕はサッカーをやることになりました。サッカーをやるのは小学校ぶりです。不安でいっぱいでしたが仲間の活躍やサポートもあり決勝まで進出することができました。決勝ではサッカー部の優咲君が完璧なスループスを出してくれたのですが、思うように足が動かず得点へ繋げることができませんでした。そんな中、みんなは「ドンマイドンマイ」と僕を励ましてくれました。前半は最初に得点を取られ得点を取り返すもまたもやゴールを決められ、二対一で終了しました。ハーフタイムの時、他のクラスの友達も応援に来てくれて、温かい学年だと思いました。

後半が始まり五分ほど経過した時、優咲君が僕を信じて少し浮き目のパスをくれました。僕も自分を信じて蹴り、ボレーシュートを決めることができました。このシュートは仲間が相手チームの選手にプレッシャーをかけてくれたおかげで決められた点でもあります。その結果、点数は二対二で並びました。ここから流れは僕たちのほうに来て優咲君が華麗なドリブルをし、決勝点を決めて見事優勝することができました。一緒に戦った仲間はもちろん、クラスの仲間や他のクラスの仲間の応援や助



けがあつてこそ優勝でした。

サッカー以外の競技の人たちも皆で声を掛け合つて正々堂々戦っている姿を見て、改めて二組はいいクラスだなと感じました。そして、みんなの協力もあり、学年優勝を果たすことができました。来年も学年優勝を目指して頑張りたいと思います。

笑顔の絶えない三日間

一年三組 小澤 千康

私の璃翔祭は、当初不安から始まりました。至るところで、時間や話し合いが足りず、最後の最後までドタバタしっぱなしでした。出し物の提出期限に間に合わなかったり、役割分担がうまくいっていなかったり、気づけば予算オーバーしてたり……。知りあつてからまだ二ヶ月ちょっとのクラスで、全てスムーズに行くわけもなく、大変なことが山ほどありました。

しかし、その分、璃翔祭の三日間の中での楽しさはそれ以上でした。例えば、本番前日の準備にて。縁日で出す予定の水風船を、放課後残れる人たちで製作していたときのこと。水風船の内の空気が抜け、水が勢いよく飛び散りあたりが水浸しに。水風船の連鎖は止まらず、担任の新井先生を含め数人がモップがけをする羽目となつてしまいました。私は横で笑っていました。

他にも、体育祭での綱引きのある一戦にて。序盤は互角だったものの、相手のクラス息ひつたりの連携に体勢を崩し、私たち三組はクラス全員で盛大にこけました。勢いよく引きずられ、結果負けてしまいましたが、思わず笑いが込み上げ、私は横で笑っていました。

そして何よりも印象深いのが、クラス発表でのダンス。リハーサルではうまくタイ

ミングが合わず、グダグダだったものが、クラス皆の突然の一体感によって、本番では想像以上に息のあつた発表になりました。所々振り付けを忘れかけている人もいましたが……。誰もがすごく楽しそうな表情を浮かべていました。最後にステージの中心に集まってみんなで「璃翔祭サイコー!」と叫んだ時、私は思わず笑っていました。どの場面でも必ず問題は起きていたのに、それ以上にずっと笑顔が絶えませんでした。璃翔祭を一から計画してくださった先生方、役員の方々には感謝の気持ちでいっぱいですが、やはり一番は「三。きっと一生忘れられない思い出を共に作ってくれた」「三に心から感謝したいです。あと残り二回。来年、再来年も、今年以上の思い出をみんなで埋め尽くしたいです。

産業社会と人間

一年四組 竹内 美里

「産業社会と人間」と聞いてパツとしなかったのが最初の印象でした。ですが、この授業での時間は私にとつてとても貴重なものになりました。産社の授業ではたくさんの方のお話を聞くことができました。大学の先生のお話や、企業の方のお話は私の視野を広げてくれました。

特に印象に残っている活動は、夏休みに行った校外学習です。

私は保育士になりたいと思つていたので保育園で三日間職場体験をさせてもらいました。学びたいこと、質問したいことを事前に考えておいたもののそれを忘れるほどたくさん仕事を経験させてもらいました。また、サメゲームとケードロを同時にを行い、その途中十分前に出会った少年に告白された事は子供の活発さと元気に改めて気づけたし好きな気持ちが増した瞬間でした。この三日間は自分に足りないこと



を確認する機会になり、何より保育士という夢がさらに私の中でより大きくなりました。夏休み明け学校でそれぞれの校外学習について発表する機会がありました。私はクラス代表に選ばれ、学年での発表をしました。発表者の八人中六人が中入生でした。中入生の発表は正直に言って桁違いにクオリティが高く私の他にいた高入生の子の発表も凄くて場違い状態でした。次はやってやんぞという気持ちになりました。また、みんなの発表からも自分の知らなかったことを知れたし私の中で新たな考え方が生まれ、とても楽しかったです。

最後に「産業社会と人間」で学んだことは書ききれませんが自分の将来や自分の知らなかった社会を知る機会になりました。今までで学んだことを大切にしていきたいしこれからの授業も自分のために大事にしていきたいです。私は将来保育士になって辞めどきになったらデイズニーで働くことが夢です。でも、他の道や夢、興味、関心を「産業社会と人間」で発見するかも知れないですし、これからがとても楽しみです。

自ら発するということ

二年一組 窪田 遙人

二年生になり、探究活動の時間が本格的に始まりました。将来を決めていく中で疑問や興味があることについてそれぞれがテーマを設定し探究してきました。私はもともと匂いについてとても興味があり、人によって匂いの感じ方に違いがある嗅覚には共通して「いいにおい」だと感じる匂いがあるのか疑問を持ち、「いい匂いでどんな匂い？」というテーマを設定しました。

ただ、簡単にいかないのがやっぱり目に見えていて、「匂い」という個人によって感じ

方や嗜好の違い、食べ物の匂いなのか、または天然香料・合成香料なのかと、単に「匂い」と言ってもさまざまな種類があつてとても探究しきれないような内容になってしまいました。

そこで私は最初のテーマが難しいと判断し、テーマの方向性を明確に決めることと共に最終的にどうしたいのか考え直すことにしました。そして現在は、匂いの中でも香りのイメージがしやすい「ラベンダー」に着目して探究していくことにしました。

これまで興味を持ったことは、自分から働きかければすぐに答えを知れるようなものばかりでした。しかし、そこから深く探究し、自分たちでテーマを設定するとなると、すぐ答えを知れるものも難題になっていく。自発的に考え、行動することは周囲の頼りを必要としている今の僕たち高校生には少し荷が重く難しいですが、その分一つひとつのアクションで学ぶ事は多かったように思います。自分たちで考え、答えを導き出すこと「自発的」に動くことの難しさを理解すると同時に、逆に自主性や主体性を育てる工夫も学ぶ事が出来ました。ここで学んだことや経験はここだけで終わらず、今後様々なことに活かせるように生活していきたいと思っています。

修学旅行を通して

二年二組 原山 うの

テストが終わり、待ちに待った修学旅行！私たちは、三泊四日で長崎と大阪に行きました。心配されていた天気も、この時期、台風が近づいていたため多少雨が降った時もありましたが、幸い天気にも恵まれ、暑すぎず心地よい気候の中での旅行となりました。



一日目は飛行機に乗って長崎へ！私にとって九州に足を踏み入れるのは初めて

だったので、とても楽しみてした。原爆資料館へバスで向かう途中長崎の町には、原爆被害があったことが垣間見える物が、至るところに残っていました。長崎原爆資料館で、八月九日原爆が落とされたその日から一変してしまった悲惨な長崎の姿を目の当たりにし、当時実際に被爆した方のお話をお聞きして、どれだけ残酷なものだったのかと心が痛むと同時に、戦争の恐ろしさというものを身にしみて感じました。今こうして私たちが平和に生活できているのは、当たり前ではないということ、また、これからも平和な日々を続けていくためにもこの悲惨な歴史を忘れてはいけないうのだと強く思います。改めて日常に感謝しようと思えることができたとても貴重な時間でした。

二日目はそんな歴史ある町を友達と自由に巡りました。今となつては、被爆した過去が嘘のように感じるほど暖かい町で、食べ物も全部美味しかったです。あつという間の三、四日目。実は一番楽しみだったユニバなんて、本当に一瞬で終わってしまいました。

この四日間では、歴史や文化を学べたのはもちろん、友達と過ごした時間は楽しい思い出となり、このクラスでよかったなと感じる瞬間が沢山ありました。また今回は様々な交通機関を利用しましたが、一人ひとりが規則を守り自覚をもった行動をしないと周囲に迷惑をかけてしまうことを身をもって感じ、自分の行動に責任をもつという団体行動をする際に大事なことも、この修学旅行で学ぶことができました。修学旅行で学んだこと、感じたことを忘れずに、残りの学校生活も楽しみたいですね。

思い出の璃翔祭

二年三組 山田 杜和

毎年、璃翔祭ではクラス発表という催しがあり、僕たちのクラスは、みんなでダンスを発表しました。そのために、クラス全員をいくつかのグループに分け、それぞれが踊る曲を選び、グループごと練習しました。ダンスの練習などはYouTubeで振り付けを見ながら練習を重ねました。どのグループもそれぞれ個性あふれるダンスを準備し、全員が熱心に取り組む姿が印象的でした。それぞれのグループがダンスを練習している合間に全員で合わせるダンスの練習も行いました。みんなの「いいダンスを踊りたいという」気持ちが一つになり、隙間時間やホームルームの時間などを使って練習したのを覚えています。

本番当日は僕たちのクラスのダンスは大成功でした。どのグループも楽しそうに踊る姿や、最後の全員でのダンスの一体感や、見ていた生徒や先生方の拍手がすごかったのは今でも覚えています。ステージの袖に戻った瞬間、みんなで「やった！」と声を上げて喜び合ったのが最高の思い出です。一位という結果はもちろん嬉しかったですが、それ以上に、クラス全員で作りに上げた達成感が何よりも嬉しかったです。

さらに、クラス展示では『チームワーク』が光りました。テーマは「アメリカン」で、模型や装飾を作るためにそれぞれが役割を分担しました。壁に黒いシートを貼る作業や車の模型を作る作業、部屋の看板や写真を貼る作業をしましたが、途中で壁に貼った黒いシートが壊れてしまうハプニングもありました。

しかし、クラスメイト全員で協力して修復作業を行い、展示を完成させました。展示の完成後、多くの来場者に「すごいね！」と声をかけてもらい、頑張った甲斐があったと心から思いました。



最後に、璃翔祭を通じてクラスの絆はより深まりました。一人ひとりが自分の役割を果たし、全員で一つの目標を達成する喜びを味わえたこの経験や、何かをやり遂げるための協力し合うことの大切さを教えてくれた璃翔祭は、今でも大切な思い出です。

修学旅行の思い出

二年四組 宮原琥珀

私たちの修学旅行では、長崎とユニバーサル・スタジオ・ジャパンという二つの素晴らしい場所を訪れました。この旅行は、友達との絆を深め、貴重な体験をする機会となりました。

まず、長崎に到着したときのことを思い出します。美しい港町の風景が広がり、歴史的な建物が点在していました。私たちはまず、長崎の歴史を学ぶために、平和公園や原爆資料館に訪れました。そこで、戦争の悲惨さや平和の大切さについて深く考えさせられました。資料館の展示を見ながら、私たちは真剣に話し合い、未来の平和を願う気持ちが強まりました。この経験は、私たちにとって非常に重要なものでした。

二日目に、グラバー園を訪れました。ここでは、明治時代の西洋建築を見学し、当時の人々の生活を感じることができました。特に、グラバー邸の美しい庭園は印象的で、友達と一緒に写真を撮りながら楽しい時間を過ごしました。

また、ユニバーサル・スタジオ・ジャパンでは、友達と一緒にパレードを楽しむことができました。色とりどりのキャラクターたちが登場し、音楽に合わせて踊る姿はとても楽しく、心が躍りました。私たちは手を振り、キャラクターたちと一緒に盛り上がり

ることができました。この瞬間は、修学旅行の中でも特に印象に残る思い出となりました。

さらに、食事も旅行の大きな楽しみの一つでした。ユニバーサル・スタジオ内のレストランで、映画にちなんだ特別なメニューを味わいました。友達と一緒に食べることで、より一層楽しい時間を過ごすことができました。食事をしながら、旅行の思い出やこれからの夢について語り合い、友情が深まった瞬間でした。

修学旅行を通じて、長崎の歴史や文化を学び、ユニバーサル・スタジオ・ジャパンでの楽しい体験を共有することができました。友達との絆がより強くなり、心に残る思い出がたくさんできました。この旅行は、私にとって特別な意味を持つものであり、これからの人生においても大切にしていきたいと思っています。修学旅行は、ただの観光ではなく、仲間との絆を深め、人生の大切なことを学ぶ貴重な機会であると感じました。

大好きな友達との三年間

三年二組 高橋 咲紀

私の三年間の高校生活で得られた一番大切なものは友達です。入学して友達ができるか不安な中、まだコロナ禍の影響は続いていて、自分の席で前向いてお昼を食べなければならなかったり、行事も制限されながら行われていました。そんな毎日から気づけば友達と机を合わせておしゃべりしながらお昼を食べることができて、修学旅行やクラスマッチ、文化祭などのイベントのたびに友達との思い出が増えていき、一緒に過ごす時間がとっても楽しかったです。同じクラスの友達はもちろん、部活や



授業を通してたくさん友達できました。嬉しい時も悔しい時も、たくさん泣いて励ましあって、応援しあって、乗り越えてきた大切な部活の仲間。何事にも全力で、みんながみんな人を楽しませるのが大好きで、優しくて面白すぎる友達、など多くの人と関わることができ、中学生の頃はコロナ禍で想像もできなかった、充実した楽しい高校生活を送ることができました。些細なことですれ違って喧嘩したことも、仲直りできたことも、高校生ならではのいろいろな経験を通してたくさん学び、成長することができたと思います。学校に行けば友達に会えて、「おはよう」から始まって、どうでもいい話も真面目な話もして、勉強もして、部活もして、あつという間に一日が終わっていきます。笑いで溢れるあたりまえの毎日をもうみんなと過ごせないんだと思うととっても寂しいけれど、みんなと出会えたこと、この三年間の日々はこれからも私の一生の大切な思い出です。

三年間ほんとうにありがとう！これからも頑張っていこうね！

高校生活最後のクラスマッチ

三年三組 鈴木 晴人

長かった高校生活の卒業式を除く最後のイベントがクラスマッチです。競技は男女ごとに異なり自分はバレーボールをやりました。全体の大まかな流れとしてはまず学年ごと、全クラス総当たりの予選リーグを行います。一年生と二年生は各二クラス、三年生は予選リーグを行います。四クラス全てが決勝トーナメントに進めます。こうして勝ち上がってきたハクラスでトーナメントをします。激闘の末自分のクラスは総合優勝することができました。三年間自分のクラスはクラスマッチや体育祭や合唱コンクールなどで一回も一位になったことがなく、三年の最後の最後で優勝の

賞状をクラスに飾れたのはとても嬉しかったです。自分はバレーボールがそんなに得意ではなくてほとんど立っているだけの存在でしたが、クラスのバレーボールを選んだクラスメートと団結し、心を一つにできたと思います。普段、体育の授業とスポBで一週間に五回もバレーボールをしているので、一年生、二年生の時よりは上手くできたと思います。試合をしていて、三年二組の笹岡くんだったり、三年四組の坂本くんだったり、ものすごいスパイクやサーブをしてくる人がいる中、自分たちのクラスが優勝できたのは本当に良かったですし、嬉しかったです。決勝戦では多くの生徒が大体育館に集まって、大勢の人達がバレーを見にきていました。自分はほぼ立っていただけなので、自分のことを見ている人はほとんどいないと分かっているにもかかわらず、緊張しました。緊張からなのか高揚からなのかは分かりませんが、ずっと心臓がドキドキバクバクしていたのを覚えています。自分たちだけではなく、サッカー組とバドミントン組と女子も各競技で高順位になってくれたおかげで総合優勝できました。最後の最後にとってもいい経験、思い出ができて、良かったです。

高校三年間の思い出に、新たに嬉しい思い出が加わって良かったです。

感謝！あたりまえの日常が戻ってきた！

三年四組 飯田 さくら

昨年五月にコロナウィルスが五類に移行され、それまで制限されていた私たちの学校生活は大きく変わりました。修学旅行や文化祭、部活動の大会など、思い切り楽しむことができ、戦うことができ、応援してもらえるようになりました。以前のような環境が戻り、本当にありがたく感じています。



生活が一変した中学一年生の時、こんな日が来ることすら想像できませんでした。あたりまえの生活があたりまえではなく、それがとても貴重なことで感謝すべきことだと、改めて気付かされました。

修学旅行では、マスクを外してクラスの仲間と思いきり楽しめたことがとても思い出に残っています。中学生の時は制限が厳しく、何をするにも約束事だらけで、心の底から楽しめなかったというのが本音です。昨年の修学旅行は規制のない中、長崎の町をおもいきり満喫し、友達の表情を見ながら楽しめ、最高の思い出ばかりが残りました。

人数制限のない一般公開となった文化祭では、模擬店を出すことができ、文化祭らしい雰囲気になり盛り上がりました。今年は三年生として、クラスで給食スイーツを売ることとなり、お店の看板から売り場まで、皆でしっかりと協力しながらやり遂げることができました。クラスの団結力を感じたひとときでした。

このようにコロナ禍を過ごしてきたからこそ、過去と今を比べることができます。人生、何事も経験なんだと思います。苦しかったあの頃があるからこそ、今に感謝できます。この三年間の様々な経験を人生の糧にして、これから先、立ちほだかる壁に立ち向かっていきたいと思います。

「い」つしよに過すごしてきた仲間を、これからも大切にしていこう！

「ち」よつとしたことでくじけないぞ！

「り」っぱな社会人になる！

「つ」っぱしる、夢に向かって！

「な」んでもプラスに変えていこう！

「が」んばった思い出は一生の宝物！

「の」んびり笑って人生を楽しもう！

